

第三十五回句会 俳句

【高点句】

- ☆写経の間一字一行秋涼し 一馬  
☆還らざる兄何処にぞ終戦日 一馬  
☆踊り果ていつしか月も山の端へ 眞澄  
☆みちのくの踊子なべて色白き 明美  
☆残暑背に負いかね足の重さかな 千恵

【各自一句】

- ・二〇一七の雲取山や登山の日 眞澄  
・言葉失せ枝豆の粒数へをり 千恵  
・撥捌ききびきび踊しなやかに 静  
・隠れ居る山尾なぞらん霧の道 青蛙  
・盆踊そつと見守る六地藏 一馬  
・竿燈の風を操り操られ 明美  
・茹でたての枝豆に手が四方から 安津子  
・枝豆の産毛にからむ塩風味 童心  
・踊子の足らぬたらぬと三丁目 きさ  
・手の先に君のうなじを追う踊 莫院  
・雷走る眼前の木をつんざきて 茂

\*以上、33句(3句ずつ11名)より、選句は12名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句(今回は、第3位が同点で3句)

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載)